

1年間の最後の参加日はこれで……

## 「成長の足あととしての学習参観を」

加印いろえんぴつ 岸本 ひとみ

1月末から3月初旬にかけて、全国どの学校でも、最後の学習参観があります。

よくあるのは「生活発表会」のようなイベントとして、1年間でできるようになったことを保護者の前で披露するものです。それはそれで、得意なことを発表するので、拍手喝采で一時間が過ぎ、いい雰囲気教室に生まれます。

でも、保護者の考えは少々違うのが実情です。得意なことを披露するのではなく、クラスとしてどこまで学習が進んでいるのか、またそれに至るプロセスはどうだったのか、が知りたいのです。

### ○低学年は保護者参加型で

低学年の場合、保護者と子どもたちとともに学習活動ができるように組み立てるとより深い感動を呼び起こすことができます。1年生で、「親子討論会」を実践したことがあります。テーマは「お家の人にしてほ

しいこと」でした。

・ペットが飼いたい

・宿題の前にテレビを見せてほしい

・もっとお手伝いを任せてほしい

・兄弟と同じようにあつかってほしい

などなど。1年生らしい願いが出てきます。

それを、自分たちなりに理由づけして、保護者の前で発表します。それに対して、保護者から意見をもらって、親子で考える機会にする、というものです。

1年生なりに、一生けんめい考えて、自分の願いがかなうように訴えるのには、手紙を書く練習をしたり、発表の練習をしたりと、高度な力が要求されます。聞き手の保護者の方も、日ごろは「早くしなさい!!」と言ってばかりだったのに、こんなことを考えていたのか、子どもの成長に驚くというような感想が多く寄せられます。2年生では、100マス計算を使った、親子対決がベストでしょう。これは、あち

こちらの書籍等で紹介しているので、ここでは割愛しますが、我が子に計算で負けた保護者は、とても嬉しそうで、その日はケーキとビールでお祝いパーティーになること請け合いです。

### ○中学年は発表会型で

3・4年生になると、低学年とはまた違って、発表会型が向いています。

典型的な例が、4年生の「二分の一人式」です。小さい頃の思い出を家庭から知らせてもらわなくても、子どもたちが覚えていることだけを、幼児の頃からつなげて発表して、将来の夢と保護者への感謝を述べれば、それだけで十分です。

ただ、ちよつと演出は必要です。司会は子どもがするとか、舞台には飾り付け、発表順はあらかじめ保護者に知らせておく、というような細かい配慮もいります。また、書いた作文を推敲する作業も、友だちどうしで発表練習することも必要です。

3年生では、音読発表会やリコーダー奏の発表会がおすすめです。

「モチモチの木」に、群読の要素を加え

て、楽器を使って演出したり、ちよつとした豆太のしぐさを入れてみたりするだけで、楽しい発表会になります。

リコーダー奏は、全体で1曲、グループアンサンブルで1曲というようにすると、みんな必死で練習に取り組みます。

そうそうリズム漢字の暗唱発表会も楽しいですよ。4年生なら、3年、2年、1年の分を全部すると、けっこうな時間がかかります。これも、群読形式で演出するといいでしよう。

これらを組み合わせ、1時間の発表会にするのもいいですね。

### ○高学年は実行委員会形式で

高学年のだいご味。それは、司会から運営を、子どもたちに委ねることができること。これに尽きます。

1月初旬から、実行委員を募って、何を発表するのか、どんな形式でするのか、などを話し合い、それをクラスで提案して修正していきます。これまで実践したもので好評だったのは、次のようなものです。

・縄跳び発表会

・音読発表会

・音楽室でのミニコンサート

・狂言発表会

・計算オリンピック

どれも、発表するだけでなく、どうやってできるようになったかとか、苦労したところはどこか、というような解説付きで発表しました。

司会を務める実行委員が、

「ストップ。では、ここでこの種目のコツ

を○○さんに語ってもらいます。」

というように進行役もするので、保護者も楽しんで参観してもらえます。

でも、実行委員会の組織どころではなく、

ちよつと大変なクラスの実態の場合におすめなのが、百人一首大会です。年明け早々から、20首ずつ練習していきます。

### ①音読

連れ読み↓交代読み

↓上の句は教師で下の句だけ全員

### ②源平戦で練習試合

### ③本番を迎える

というように組み立てると、学習規律が少々崩れかけているクラスでも、何とかも

ちこたえることができます。

「下の句を読み終わるまでに、ひとことでもしゃべったら、お手付き扱いです。」というルールを最初に徹底しておくといいですね。

最初の20首が終われば、次の20首に入るというようにすると、1か月で40首から60首の試合ができるようになります。

中学校では古典として、冬休みの宿題に百人一首の暗唱が出るので、その予習ということにして、子どもたちのモチベーションを上げればいいのです。

### ○みんなでできることをコツコツと

参観に来られた保護者は、その日だけのイベント的な発表会ではなく、子どもたちの努力の跡がわかるとき、そして、クラスで一丸となって取り組んでいることがわかったときに、指導している教師に対して信頼が深まるのです。学力研の実践は、みんなでできることをコツコツと、がモットーですから、ちよつとした演出を加えるだけで、参観日のネタにはもってこいのはずです。